

全国 保健所長会 だより

はじめに

社会医学系専門医制度の施行から7年の月日がたち、全国各地の保健所では、専攻医の育成が着実に進んでいます。しかし、これまでの間、社会医学系専門医研修プログラム整備基準の中で示されている社会医学系専門医が身に付けるべき「8つのコンピテンシー」を、日々の業務の中でどのように学び、身に付けていくのか、具体的な指針となる育成資料は不足していました。

複数の指導医たちに恵まれて、多くのナレッジを学ぶことのできる環境にいる専攻医もいる一方で、指導医不足の環境下で十分な指導を受けることが難しい専攻医もいます。例えば大阪府では、大

シオンをすることは、公衆衛生医師の業務内容や関連する法律・制度などへの理解を容易にすることが期待できます。

本ケーススタディ集には14の思考実験ができるケースが収録されており、それぞれのケースがA4判1枚で提示されているので、次のページをめくらなければ、実際の対応例や解説を見ることなく、じっくりと自分なりの解答を考えることができるように工夫されています。まずは、自分なりの解答を考えてから、その上で対応例と解答を読み、自分の解答とどこが同じでどこが違っていたかを確認してください。また、対応例はあくまでも解答の一例であり、「本書の使い方」に書かれている通り、それを参考にして、ぜひご自身や

行政・地域分野における社会医学系専門医育成の羅針盤「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」

全国保健所長会「公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会」委員長

香川県中讃保健所長 横山 勝教

阪府保健所長会・大阪府保健所医師会が若手医師の育成のために職業モデル事例集を編さんしていましたが、他の自治体で独自にこうした育成資料を作成された例はなく、マンパワーが不足している多くの自治体では同様の取り組みは困難でしょう。

こうした中、全国各地の専攻医たちから聞かれたのは「研修プログラムの到達基準の具体化」研修内容に関する説明素材の充実「プログラム内容や指導医の資質の標準化」を求める声でした。

この課題に応えるため、全国保健所長会の「公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会」では、地域保健総合推進事業「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」と連携し、令和4年から2年間、公衆衛生医師の育成

所属部署などの、より良い解答を考えてください。

「ともに成長できる一冊。」

社会医学系専門医の育成は、公衆衛生全体の質の向上に不可欠です。しかし、臨床系の専門医とは異なり、社会医学の範囲はあまりにも広く、専攻医は目の前に広がるさまざまな社会課題に対して、地域住民の健康を守り、安心して暮らせる社会を実現するために、自分には何ができるようになればよいのか、その力を確実に付けるための研修などはあるのかと、研修プログラム中に途方に暮れたり迷子のような気持ちになったりするかもしれません。自治体によっては指導医が常にそばに付いて指導ができない状況もありま

す。日々の業務や研修の中で、そうした不安や孤独、迷いを感じたときには本ケーススタディ集を手にとってください。表紙に大きく書かれた「ともに成長できる一冊。」の通り、この中には、

資料の制作に協力してきました。そしてついに、令和5年度事業で完成した「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」(以下、「本ケーススタディ集」という)は全国の保健所に配布されるとともに、全国保健所長会ホームページにも掲載されました。

活用方法と期待される効果

本ケーススタディ集では、各事例で実際の対応例を示し、公衆衛生医師がどのように考え、どのように対応したのか、8つのコンピテンシーをどのように生かしたかが詳細に分かるようになっていますが、本ケーススタディ集の醍醐味は、読者が主人公になりきり、自分なりの対応を考える思考実験

共に学び成長できる仲間がいます。事例をひも解きながら読み進めるうちに、本ケーススタディ集の制作のために全国から集まった公衆衛生医師や、本ケーススタディ集を使って学んでいる全国の専攻医の仲間と、ともにいることを実感できるでしょう。

結びに

将来、公衆衛生医師として、保健所や本庁の中で意思決定を任されるリーダーを育成するには、正解が分からない中でも、意思決定をし、組織を動かし、決めたことをやり切る力など、まさに8つのコンピテンシーを育成することが必要です。本ケーススタディ集は、その実現に向けた強力なツールとなるでしょう。専攻医の育成はもちろん、指導医講習会、医学生

社会医学系講義や実習、見学・インターンシップにいられた方に対する公衆衛生医師の業務紹介など、さまざまな場面で活用ください。きっと、行政・地域分野における社会医学系専門医育成の羅針盤として、それぞれの歩む道を導

ができることです。

専攻医にとっては、思考実験を繰り返すことで、8つのコンピテンシーを具体的な事例を通して理解しながら、自分の組織や地域に応じて実践する力・解決策を思考する力が向上すると期待されます。

また、専攻医の有無にかかわらず、すでに専門医や指導医となっている医師にとっても、さまざまな事例に対して思考実験をし、他の公衆衛生医師の対応例と比較することは「自分ならこうする」という自分なりの答えを導き出す力と専攻医を教えるのに必要な指導力の強化に役立つことが期待されます。

さらに、医学生にとっても、講義や実習で本ケーススタディ集のケースを取り上げてディスカッションをしてくれるでしょう。そして、その道の先には、それぞれが活躍し、地域住民の健康を守る未来が待っています。

全国保健所長会の「公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会」では、地域保健総合推進事業や社会医学系専門医協会と連携しながら、医療および保健分野における社会課題に対して改善・解決に導くことのできる公衆衛生医師を確保・育成し、もって国民の健康な生活を確保することを目的として活動してまいります。今後ともご指導・ご協力をよろしく願います。

CASE STUDY

PUBLIC HEALTH DOCTOR

公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集



ともに成長できる一冊。

- 参考資料
- 1) 行政医師・歯科医師人材育成の職業モデル事例集2022 Ver.1.1
<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/4018/jireishu.pdf>
 - 2) 令和4年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書(P19-28) 調査事業(2)社会医学系専門医制度による公衆衛生医師育成に関する実態調査(インタビュー調査)
https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiihoken/pdf/2022_file01.pdf?RR
 - 3) 令和5年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業 ケーススタディ集
https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiihoken/pdf/2023_file01-2.pdf

